本棚

愛媛大学社会共創学部研究チーム 著

『大地と共に心を耕せ ──地域協同組合無茶々園の挑戦──』

無茶々園（むちゃちゃえん）は愛媛県の西南に位置する西予市明浜町を拠点に事業展開する生産者集団で、地域の有機農業運動のリーダー的存在である。「無農薬・無化学肥料栽培なんて無茶なことかもしれないが、そこは無欲になって無茶（苦）茶に頑張ってみよう」という意味を含めて命名された。この地域の基幹産業のひとつであるカンキツ農業の有機栽培からスタートした集団が、平成28年度農林水産祭の表彰事業で「むらづくり部門」の「天皇杯」に輝いた。

長年にわたり研究交流のある愛媛大学の研究者にとって、無茶々園が農産・園芸でなく「むらづくり」で評価されたことに驚きはなく、“なるほど”というのが率直な感想だ。そのことは、設立40年を迎えた無茶々園のこれまでの足跡をたどれば明らかである。

本書の企画・執筆に関わった村田武氏（九州大学名誉教授、愛媛大学元教授）は、地方の視点による地域再生の取組みが全国の若い世代に共感を呼び、年間販売額10億円・雇用90人という雇用と協働の場をつくりだしていることを高く評価する。無茶々園の40年を総括しこれからの展望をどう考えるか、それは広く有機農業運動と「むらづくり」にまい進する人々とともに、協同組合運動に集う都市生活者にとっても多くのヒントとやる気を与えてくれる。それが本書に込められた思いでもあり、読後の実感である。

本書は愛媛大学の研究チームを中心に分担執筆し、構成は以下のとおりである。

はじめに　（村田武・中安章）
序章　ＦＥＣＷ自給圏構想　（村田武・中安章）
第Ⅰ章　西予市明浜町とカンキツ農業　（村田武・中安章）
第Ⅱ章　有機農業　（村田武・中安章）
第Ⅲ章　都市生活者との共生・共感　（山藤篤）
第Ⅳ章　新規就農希望者研修センターと直営農園　（香月敏孝）
第Ⅴ章　ベトナムに有機農業を根づかせる　（村田武・中安章）
第Ⅵ章　農家組織から地域組織へ　（笠松浩樹）
おわりに―これからの農業経営モデルと無茶々園がめざすべき方向　（村田武・中安章）

各章のタイトルからもわかるように、無茶々園の取組みは有機農業運動をベースに、都市生活者との「顔の見える」関係づくり、新規就農者の呼込み、外国人研修生の受入れとベトナム進出へと展開し、生協やワーカーズコープといった運動の成長とも軌を一にして発展してきた。海の生産者とも連携し地域循環型産業を志向し、福祉事業に挑戦するなど、農家組織から地域組織へと脱皮を図ろうとしている。Ｆ（食）、Ｅ（エネルギー）、Ｃ（ケア）の自給に加えて、企業誘致に依存しないW（ワーク、雇用）の創出によるFECW自給圏構想を唱え、無茶々園は「グローカルビジネスの構築」、「コミュニティビジネス化」で、その先頭に立とうとする。先頭に立つことは課題の先頭に立つことでもあり、先行したことによる失敗例も含めて、本書は示唆に富む。

通底するテーマは「農山漁村で自信と誇りを持って持続可能な生き方を構築する」ために何ができるか、何をするかである。これは愛媛大学社会共創学部の学部理念にも通じるもので、本書はフィールドワークに根ざした研究で、大学・研究機関にとって地域との連携のあるべき姿を示しているともいえる。

――農山漁村文化協会　2018年11月
定価1,600円（税別）144頁――

（主席研究員
河原林孝由基・かわらばやし たかゆき**）**

農林中金総合研究所
https://www.nochuri.co.jp/